

ひずみゲージアンプSTAシリーズの電源線と信号線の正しい接続方法と誤接続の例	
正しい接続	誤接続
<p>基本的な4線接続</p> <p>電源線と信号線を分離する。信号線が長くなり線の電気抵抗が増えた場合でも、信号の減衰や温度ドリフトが無い。</p> <p>【例: 2ゲージ: 120Ω 3線式】</p> <p>※1ゲージ接続の場合も同様</p>	<p>電源のプラス・マイナス逆接続</p> <p>アンプに電源供給が無く、出力は出ない。アンプ本体は、+-の逆接続では壊れないような保護回路があるが、別の電源回路と繋がっていると故障する場合もある。</p>
<p>電源マイナスのみを使用した3線接続</p> <p>信号線が長く(10m~300m)なり、電線の電気抵抗が高く(10~100Ω)なると、信号の減衰や温度ドリフトが増大する。</p>	<p>電源に20V以上を加える。電源が8V以下に下がる。</p> <p>アンプの奨励電源電圧11~15Vです。20V以上の電圧は故障の原因になります。また、8V以下では、出力値が正しい値を示さない場合があります。</p>
<p>電源と信号のマイナス共通の3線接続</p> <p>信号線が長くなると、信号の減衰と温度ドリフトが増大(上記のケースより誤差は25%ほど少ないが)。</p>	<p>計測器に信号のマイナスが無い</p> <p>信号は出ているが、計測器のマイナスが未接続のため、計測値は不安定で意味が無い。</p>
<p>電源と信号のマイナス側を逆に接続</p> <p>電源-(黒)と信号-(緑)はアンプの中で接続されているので、測定結果は同じですが、配線間違いの元にもなるので、なるべく、正規の接続をしてください。</p>	<p>計測器の正・負の逆接続</p> <p>信号は出るが、歪みの信号の正負が逆転するため、本来信号が増大する場合に、逆に信号が減衰するような動きになる。</p>

※ひずみアンプSTAシリーズのSTA-12GやSTA-04Gには、専用の接続ケーブルは付属していませんが、配線接続は、上記と同じように行ってください。